

## いぐさ「ひのみどり」の茎伸長特性について

飯牟禮和彦・中澤芳則<sup>1)</sup>・深浦壯一  
(熊本県農業研究センターい業研究所・<sup>1)</sup>九州農業試験場)

Kazuhiko IMURE, Yoshinori NAKAZAWA and Souichi FUKAURA :  
Elongation Characteristics of Mat Rush Cultivar "Hinomidori"

いぐさ品種「ひのみどり」は、熊本県の高級畳表ブランド「ひのさらさ」に使用される品種として1998年から作付開始されたが、現場からはこの「ひのみどり」にあった生産安定技術の確立が要望されている。そのため基礎試験として「ひのみどり」の茎伸長特性について調査を行った結果、若干の知見を得たのでここに報告する。

## 1. 材料および方法

供試品種は「ひのみどり」および対照として熊本県の主力品種「岡山3号」で、1999年12月10日から12日にかけて栽植密度27.8本/m<sup>2</sup>(18cm×20cm)で移植した。移植株の先切茎数は耕種基準にほぼ準じており、「ひのみどり」で12本、「岡山3号」で8本程度とした。この場合、両品種の移植株の乾物重はほぼ同程度となる<sup>1)</sup>。収穫は2000年7月4日で、その他の栽培管理については熊本県の普通刈耕種基準に準じて行った。

## 1) 出芽時期と収穫時茎長

2000年4月12日から6月27日まで、1品種15個体について1週間毎に地表面から10mm以内の新芽にリングをはめて出芽日をマークし、7月4日に株を掘り取り茎長を測定した。

## 2) 出芽時期と茎長の推移

2000年4月12日から6月27日まで、1品種50個体について1週間毎に地表面から10mm以内の新芽にリングをはめて出芽日をマークし、出芽後2週間毎に同じ日に出芽した10本前後の茎を地際から切り取り茎長を測定した。

## 2. 結果および考察

## 1) 出芽時期と収穫時茎長

「岡山3号」は4月12日から出芽が遅くなるに従って収穫時茎長が長くなり5月23日で最長となり、その後短くなった。これに対し「ひのみどり」は「岡山3号」とほぼ同様な傾向が認められたが、収穫時茎長が最長となる出芽日が5月16日と「岡山3号」より1週間早かった。また、その時期より早く出芽した比較的古い茎は収穫時「岡山3号」より長く、逆に遅く出芽した比較的若い茎は同程度かやや短い傾向が認められた(第1図)。なお、前年度の予備調査でも同様な傾向が認められた。

## 2) 出芽時期と茎長の推移

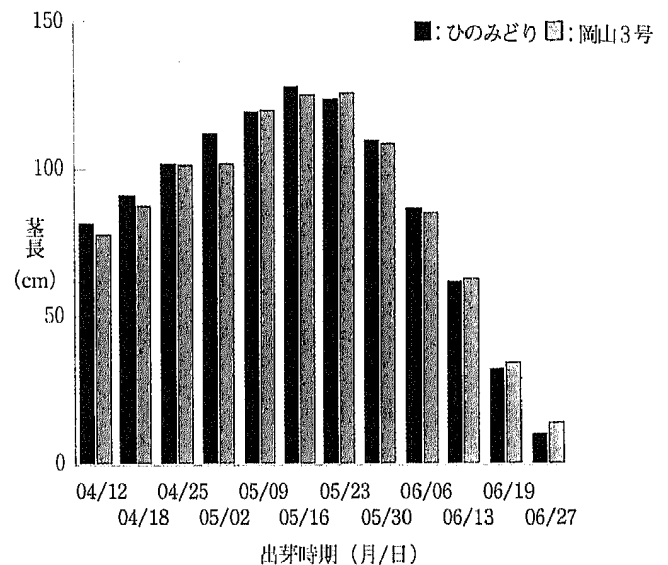
各出芽日茎の伸長速度を比較すると、「岡山3号」は4月12日から出芽が遅くなるにしたがって伸長速度が大きくなり、5月上旬出芽茎が最大となって下旬以降の出芽茎は再び小さくなった。各出芽日茎の伸長速度の推移を比較すると、伸長速度が遅い前期に出芽した茎はS字カーブを描いて伸長し最後はあまり伸長しなかったが、それ以後に出芽した茎はほぼ直線的に伸長した。「ひのみどり」も「岡山3号」とほぼ同様な傾向が認められたが、伸長速度が遅い前期に出芽した茎の出芽直後2週間

の伸長速度が「岡山3号」の場合と比較してより小さく、特に先刈りと第1回追肥直前の5月2日出芽茎で小さかった(第2図)。

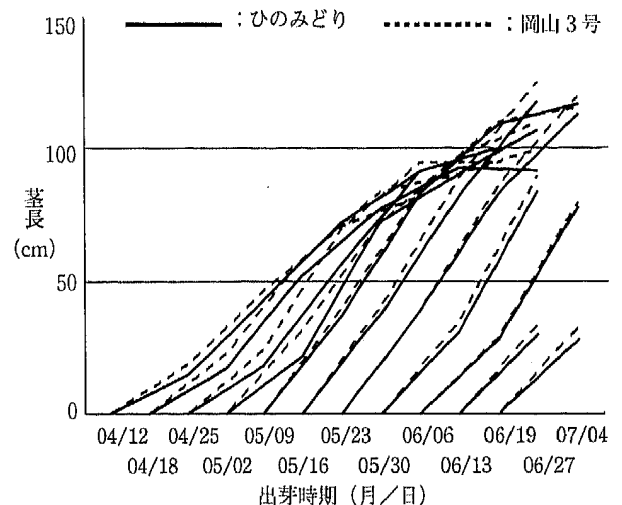
今後は、今回得られた結果を踏まえて「ひのみどり」の栽培試験を実施する予定である。

## 引用文献

- 1) 平成10年度いぐさ育種試験成績書：第9号，熊本県農業研究センターい業研究所，2000。



第1図 出芽時期と収穫時茎長



第2図 出芽時期と茎長の推移